

1 事業の成果

①災害復興支援事業

緊急支援活動としては、熊本地震、台風 10 号の被災地（岩手県久慈市、岩泉町）に対する支援を行った。熊本地震では、支援の手が届きにくかった宇城市を対象に支援を行い、長崎県在住の理事を中心に、復興のリズムに合わせて 3 月末まで支援活動を継続した。

台風 10 号の被災地に対する緊急支援活動（岩手県久慈市、岩泉町）は、理事 1 名が 5 日間現地に滞在し、ボランティア受付業務改善などの、災害ボランティアセンターの立ち上げ支援を行い、ボランティアセンター運営の業務改善に寄与した。

被災者に対する支援を行うと共に、将来自分たちが被災者となったときの備えという視点で多くの知見を得ることができた。

②災害被災地との観光交流支援事業

本年度は事業を行わなかった

③災害教育・防災教育事業

2015 年度から 2 年間に渡って、神奈川県教育委員会、かながわ県民活動サポートセンターと協働で行ってきた「児童・生徒の防災教育推進事業」は、モデル校（3 校）をはじめ、小学校、中学校、高校、団体合わせて 13 団体 28 件で防災教育プログラムの検証を行った。「指導してもらえるので負担感が少なく済む」「子どもたちへの学習効果を実感している」等の高い評価をいただいた。また、県立高校から「DIG」の講座依頼をいただき、高校生向けの防災教育について考えるきっかけとなった。

防災教育ファシリテーター養成講座（全 4 回）を 2 回開催し、45 人のファシリテーターを育成した。

* 神奈川県の地域特性と学校事情を理解しているとともに、防災の知識をあわせ持つ人材を防災教育ファシリテーターと位置づけている。

④災害情報活用事業

コミュニティカレッジ連携講座 5 回、市民活動団体向けの Facebook 講座 10 回等の自主講座の他、震災対策技術展横浜、などの依頼講座 2 回を行った。また、災害復興事業、防災教育事業の下支えとしての活動も行った。

⑤災害被災地の産業復興支援事業

継続して行ってきた、グルメフェア（被災地の中小事業者の物産を紹介販売）、復興キッチン（被災地の食材や酒類を取り寄せて行うイベント）2 回の開催に加えて、東北沿岸部からゲストを招き、講演、懇談を通じて今後の東北応援を考える東北未来カフェを 6 回開催。年度末には東北未来フォーラムを開催。併せて計 7 回、参加者は累計 190 人となった。現地との繋がり、東北復興に関心を持つ人々との横の繋がりをあらためて深めることができた。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 災害復興支援事業

ア) 熊本地震支援活動

日時 内容	受益対象者数	従事者人員
4月21日～3月31日（約90日訪問） <ul style="list-style-type: none"> ● 熊本県宇城市にて、市社協災害ボランティアセンター運営に関する助言や市役所との連携促進・調整、情報発信指導やICT環境整備等の運営支援、同市内避難所にて避難生活環境改善等の支援を実施 ● 災害ボランティアセンター閉所後移行した、生活復興支援ボランティアセンター運営に関する助言や仮設住宅入居世帯調査、情報発信指導等の運営、市役所との連携強化や調整等を実施 ● 10月から開設となった、地域支え合いセンターの運営に関する助言、仮設入居者コミュニティ形成支援、情報発信指導等を実施 	熊本県宇城市 地震被災者、 宇城市社会福祉協議会	5人

3月11日にかながわ県民活動サポートセンターにて報告会を開催した。

イ) 台風10号による水害支援

日時 内容	受益対象者数	従事者人員
9月13日～17日 <ul style="list-style-type: none"> ● 岩手県岩泉町・久慈市にて、災害ボランティアセンター運営支援、ボランティアバス企画に関する調整を実施 	岩手県岩泉町、久慈市の被災住民	1人

上記現地との調整により、神奈川からのボランティアバス3本（10月8日～10日、21日～23日、28日～30日神田交通（株）主催）の実施に至った。

② 災害被災地との観光交流支援事業

本年度は、この事業は行わなかった。

③ 災害教育・防災教育事業

2015年度から、かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金対象事業として、「児童・生徒の防災教育推進事業」を2年間行った。

事業1 防災教育プログラムのモデル開発事業

日時 内容	受益対象者数	従事者人員
①モデル校での防災教育プログラム検証 <1>横浜市立中川西中学校 取組内容：防災講演の実施と保健委員会および学校保健委員会でのHUGの指導、保健委員会生徒へのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ● 8月30日 防災学習「防災講演会」 ● 2月17日 保健委員会「クロスロード」 ● 3月13日 防災学習「クロスロード」 <2>横浜市立並木中学校 取組内容：職員研修と保健委員会および学校保健委員会でのHUG指導、地域防災訓練についてのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ● 9月6日 職員研修「HUG」 ● 9月9日 保健委員会「HUG」 ● 9月25日 地域防災訓練アドバイス ● 11月18日 学校保健委員会「HUG」 	神奈川県内の小中学生・教員 1715人	3人

<p>③座間市立入谷小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月8日 語り部講話 震災絵本の朗読 ・7月22日 職員研修「かながわ版防災教育プログラムについて」 「各学年の年間防災教育計画へのアドバイス」 ・10月25日 4年生研究授業、研究協議（4年） ・10月31日 1年生研究授業（研究協議は別日） ・11月29日 特別支援学級研究授業、研究協議（6年、特別支援） ・12月5日 3年生研究授業、研究協議（3年） ・1月30日 2年生研究授業、研究協議（5年、2年） 		
<p>②モデル校以外での防災教育プログラム検証 モデル校以外から講座等の依頼を受けた際にもアンケートを実施し、防災教育プログラムの実施・検証に活用した。</p> <p>神奈川県内の小中高校、市民団体計 10 団体 15 件。</p>	<p>神奈川県内の小中高校生・教員 1515人</p>	<p>3人 ボラ延べ68人</p>
<p>③「2016年度防災教育事業事例発表会」 2月26日 横浜市吉野町市民プラザ</p> <p><1>311 ネットワークが行った防災教育事業2年間の報告会 学校・団体の実践発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川西中学校：「横浜市立中川西中学校の取り組み」 ・並木中学校：「自助、共助を育てる防災安全教育の実施」 ・入谷小学校：『災害時に自分の命を守り、支え合える力・心の育成～「知って」「考えて」「行動する」防災教育』 ・小坪小学校：「自分の命は自分で守る学習」 ・横浜市立能見台小学校：「6年2組の取り組み」 ・特命子ども地域アクター：「こどもと大人と一緒に取り組んだ防災活動について」 ・沼間小学校地区避難所運営委員会： 「学習と訓練で変わる避難所運営」 <p><2>講演 岩手大学大学院教育学研究科 森本晋也准教授 釜石東中学校で震災前から取り組んでいた防災教育についてのお話しや、震災当時中学生だった生徒（現在は大学生）に行っている、当時の防災教育についてヒアリング調査の内容についてのお話し。</p> <p><3>発表校・団体の展示ブース見学と交流</p>	<p>神奈川県内の学校関係者や防災団体 56人</p>	<p>10人</p>

事業2 学校と地域のつなぎ役の人材発掘と育成事業

日時 内容	受益対象者数	従事者人員
<p>① 防災教育ファシリテーター養成講座@かながわ県民活動サポートセンター</p> <p><1>初級編 全4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日 防災教育体験その1 DIG（災害想像ゲーム） ・8月6日 地域防災計画&学校防災計画（座学） ・8月20日 防災教育体験その2 逃げ地図 ・9月3日 防災教育体験その3 HUG（避難所運営ゲーム） <p><2>上級編 全4回@かながわ県民活動サポートセンターほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月15日 防災教材指導法その1 DIG（災害想像ゲーム） ・10月25日 講演 ・11月12日 防災教材指導法その2 逃げ地図、鎌倉まち歩き ・11月26日 防災教材指導法その3 HUG（避難所運営ゲーム） 	<p>27人</p> <p>18人</p>	<p>3人</p> <p>3人</p>

<3>ファシリテーターの実践研修（講座・講演等） 講座等、ファシリテーターとしての実践研修の場として活用した。 神奈川県内の小中高校、市民団体計 11 団体 20 件。	19 人	3 人
--	------	-----

事業3 かながわ子ども防災情報ステーション事業

日時 内容	受益対象者数	従事者人員
かながわの防災教育ポータルサイト「かながわ子ども防災 情報ステーション」の開設・運営	神奈川県内の学校関係者や地 域団体	4 人

その他 研修バス・コーディネート

日時 場所	受益対象者数	従事者人員	備考
9月23日～24日 ジョンソンコントロールズ株式会社	22 人	2 人	福島県いわ き市

④災害情報活用事業

ア) 災害情報ボランティアスキルアップ講座事業

「県民の学び場」としてのコミュニカレッジに応募し、連携講座を開講した。その他自主講座も行った。

かながわコミュニカレッジ連携講座

日時 内容	受益対象者数	従事者人員	備考
10月30日～12月4日全4回 「災害時に生き抜くためのインターネット活用術」	13 人	5 人	かながわ県民センタ ー11 階

ICT 月 1 カフェ

日時 内容	受益対象者数	従事者人員	備考
5月8日～2016年1月8日全6回 ICTに関するよろず相談、勉強会	27 人	2 人	かながわ県民センタ ー11 階

基金 21 登録団体向け Facebook 講座

日時 内容	受益対象者数	従事者人員	備考
5月16日～27日全5回 1月6日～1月14日全5回	22 人	2 人	かながわ県民センタ ー11 階

その他依頼講座

内容	受益対象者数	従事者人員	備考
5月15日 お茶の水女子大学同窓会千葉支部総会での防災講演会	40 人	1 人	ホテルポートプラザ ちば
2月3日 震災対策技術展@横浜「防災減災にスマホを活かす」	40 人	1 人	パシフィコ横浜

⑤産業復興支援事業

ア) イベント事業

日時内容	受益対象者数	従事者人員	備考
12月8日～10日東北グルメフェア 被災地食品を試食付で紹介することで、震災の風化を防ぎ、また被災地生産者、事業者を支援する。	被災地での生産者多数 神奈川県を中心とした首都圏在住者約350人	10人	かながわ県民センター1階
3月11日、12日市民活動フェア 活動紹介と東北グルメの販売、提供 熊本支援報告会の実施	神奈川県を中心とした首都圏在住者約200人	8人	かながわ県民センター10階 及び7階会議室

イ) 復興キッチン

日時 内容	受益対象者数	従事者人員	備考
6月4日復興キッチンVol.13「気仙沼のさかなと 神奈川野菜のマリアージュ」 気仙沼の旬の野菜をイタリアンの味付けで 熊本支援の球磨焼酎も登場	18人	5人	カフェ食堂 80*80 <関内>
2月16日 復興キッチンVol.14「『濱の料理人』 で東北の食材を楽しむ!」 東北の魚介を横浜野菜と味わうタベ 参加者同士の交流や防災意見交換も活発に	20人	5人	大ど根性ホルモン <横浜駅西口>

ウ) 東北未来カフェ、未来フォーラム

東北の今を知り、これからの東北応援を語り合う場として、東北からのゲストを招いた6回の連続講演会とフォーラムを実施。各回に東北の逸品を集めた懇親会を加え、被災地食材の魅力再提案も。

* 建築安全協会社会福祉助成金事業

日時 内容	受益対象者数	従事者人員	備考
7月3日 第1回東北未来カフェ 岩手県上閉伊郡大槌町 横浜市職員 田中一樹さん 大槌町でまちづくりにかかわった立場で	10人	8人	BUKATSUDO <みなとみらい>
7月30日 第2回東北未来カフェ 宮城県気仙沼市 気仙沼プラザホテル支配人 堺 文明さん 産業界の立場からの復興を語る	15人	10人	さくら WORKS <関内>
8月20日 第3回東北未来カフェ 宮城県牡鹿郡女川町 (社)コミュニティスペースうみねこ代表 八木純子さん 民間ならではのアイデアを活かした自立自主を目指す活動についてお話	30人	10人	さくら WORKS <関内>
10月8日 第4回東北未来カフェ 福島県いわき市 未来会議事務局長 菅沼 香織さん 双葉郡未来会議代表 平山 勉さん 未来会議トークナイト in 横浜	39人	12人	さくら WORKS <関内>

<p>11月12日 第5回東北未来カフェ 岩手県大船渡市 大船渡津波伝承館館長 齋藤賢治さん 東日本大震災を通して学んだ、自然の怖さ、人間の強さ、自然の恵みを</p>	21人	7人	さくら WORKS <関内>
<p>12月3日 第6回東北未来カフェ 福島県相馬市 相馬のおんちやま 高橋永信さん 風評被害の中、相馬の美味しいお魚を美味しいままで、安全に</p>	30人	10人	BUKATSUDO <みなとみらい>
<p>2月11日 東北未来フォーラム「復興からまちづくりへ」 遠野まごころネット理事 多田一彦さん (社)コミュニティスペースうみねこ代表 八木純子さん 元おらが大槌夢広場代表理事 阿部敬一さん かながわ県民活動サポートセンター所長 坂井雅之さん 多田さんによる基調講演の後、4名の方と伊藤代表理事によるパネルディスカッション その後、名刺交換会での交流</p>	50人	10人	富士通エフサス <みなとみらい>

(2) その他の事業

なし